

(5) 東海



東海地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

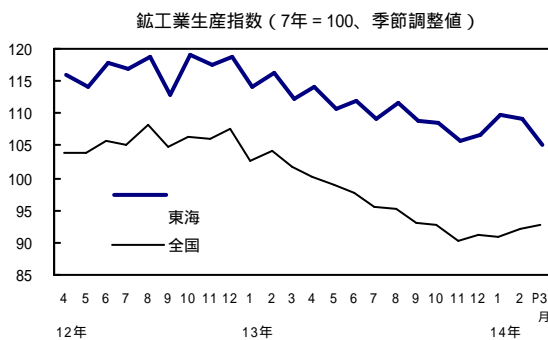
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 2 月)	今回 (平成 14 年 5 月)	
総括表現	一段と悪化している	下げ止まっている	
鉱工業生産	さらに減少している	おおむね横ばい	
個人消費	弱含み	やや弱含み	
公共投資	このところ前年を上回っている	前年を下回っている	
雇用情勢	さらに厳しさを増している	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、自動車の国内向けが弱含みとなっているが、米国を中心とする輸出向けの動きが続いており、全体として増加している。一般機械は、土木建設機械は低迷しているものの、金属工作機械の自動車関連の動き、繊維機械の中国向け輸出等により下げ止まっている。電気機械は、電子計算機・同関連装置等が専用端末の金融機関向けを中心に弱含みであるものの、半導体素子・集積回路が記憶素子を中心に下げ止まりの兆しがみられ、全体でおおむね横ばいとなっている。窯業・土石は、陶磁器の生産が低調であり、減少している。化学は、プラスチックに下げ止まりの兆しがみられるが、全体では弱含んでいる。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
輸送機械	30.3	8.9	5.0	2.5	24.3		
一般機械	11.4	9.8	3.1	4.2	10.7		
電気機械	11.2	5.0	1.0	4.2	9.1		
窯業・土石	7.3	18.6	4.5	0.8	16.9		
化学	5.7	3.8	2.5	4.2	2.8		
鉱工業	100.0	2.5	0.8	0.1	3.1		

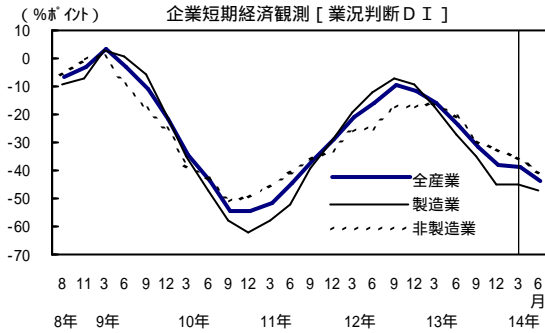
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種

2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部

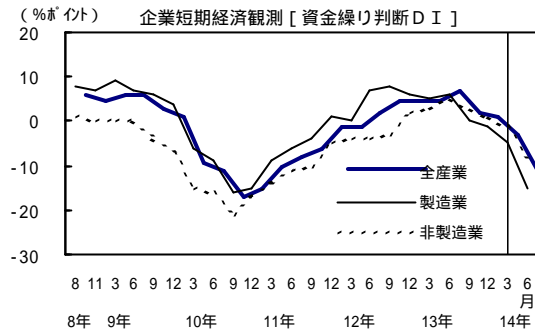
3. 1~3月期は速報値

(備考) Pは速報値

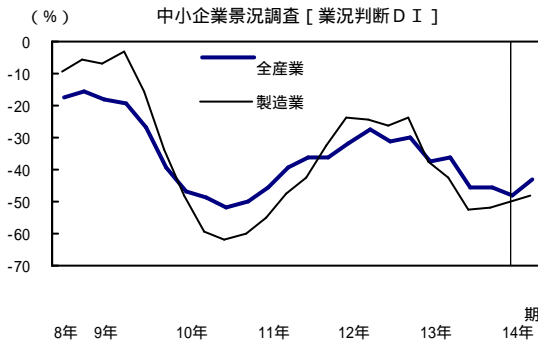
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいであり、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「中国でアパレル製品を増産しており、工業用ミシンの受注が増加している。その一方で国内向けは低調であり、高付加価値機器の受注が少ない(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

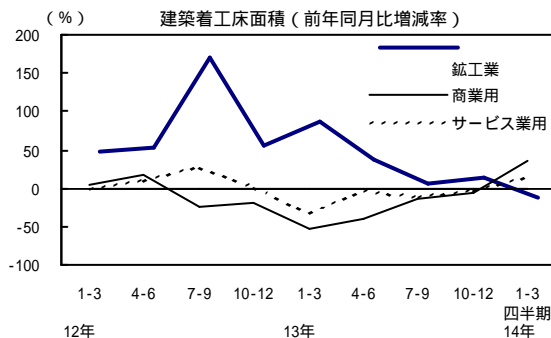
(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	2.2 [1.5]	8.6
製造業	6.7 [8.0]	6.8
非製造業	8.2 [8.1]	10.0

(備考) []は前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

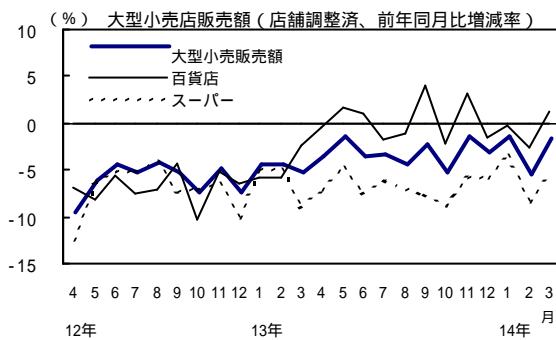
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は初売り及びクリアランスセール、2月はバレンタインセール等により動きがみられたものの、暖冬による冬物衣料の不振、全般的な低価格傾向、さらに引き続き消費行動に慎重さがみられ、前年を下回って推移した。3月はリニューアル効果や気温が高めに推移したことで春物衣料に動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、低価格傾向による衣料品、飲食料品等の不振が直近も含め続いており、39か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「弁当よりもおにぎりの動きが活発になるなど、低単価志向が強まっている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

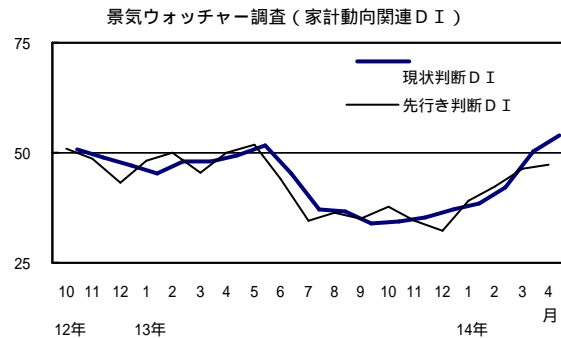
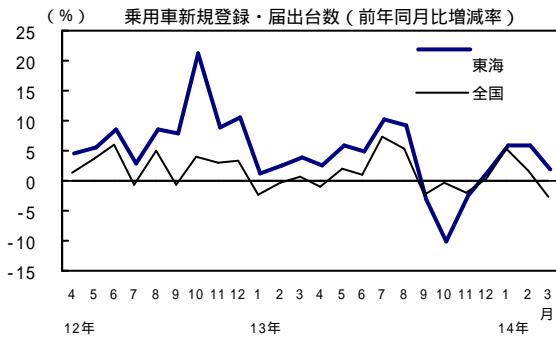


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	3.8	4.3	4.2	3.7
百貨店	0.8	0.1	0.3	0.4
スーパー	6.5	6.9	6.7	5.6
乗用車	2.0	2.4	6.1	1.5
景気ウォッチャー	45.4	32.5	32.1	40.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

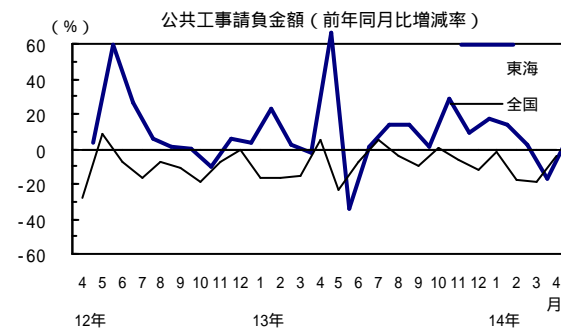
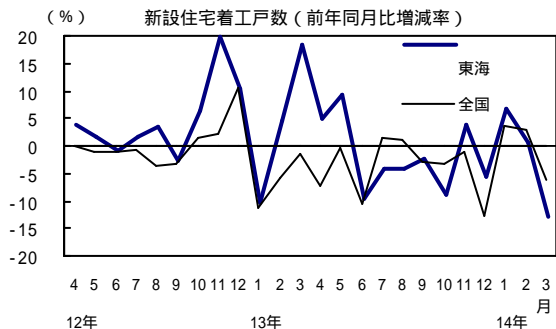
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年をわずかに上回ったものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

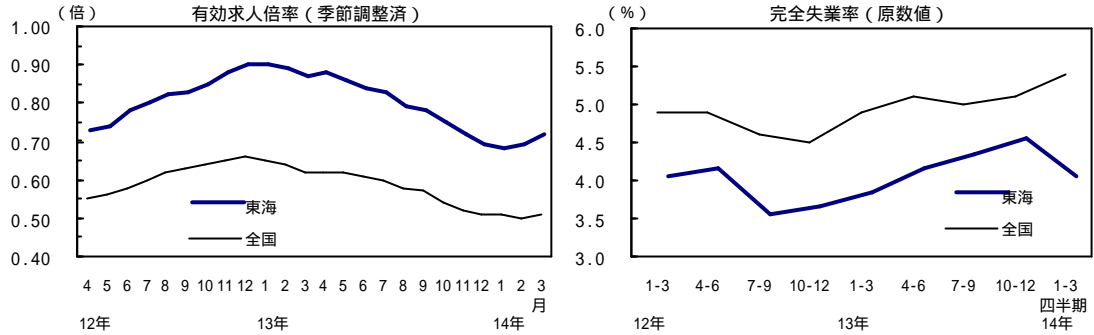


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

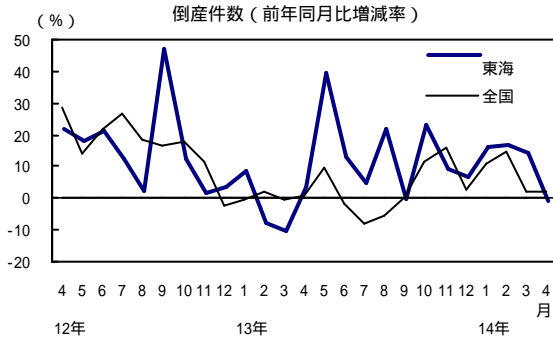
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は、前年同期をわずかに上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月調査）[雇用関連（現状判断）]

「好調企業の一部で求人ニーズが盛り返している一方で、派遣職員のカットの動きも相変わらず続いている（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数 (前年比)	507 13.4	458 4.3	480 9.3	460 11.9	158 4.8
負債総額 (前年比)	1,531 13.0	1,684 13.4	2,378 0.7	3,486 212.4	643 20.1

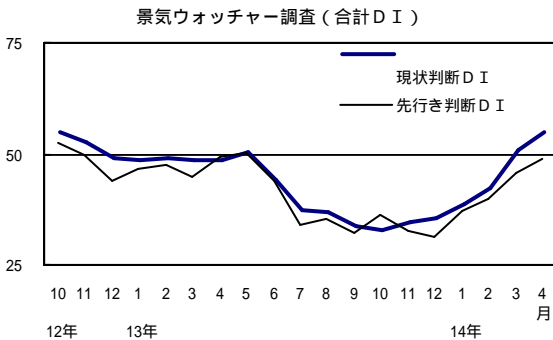
景気ウォッチャー調査（4月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・以前は、高額品は見るだけのパターンが多かったが、最近は接客段階で購入意欲を感じる。高額品がかなり売れ始めている（家電量販店）。
- ・IT関連の求人数が徐々に上向きになりつつある（アウトソーシング企業）。

<先行き>

- ・コスト下落は続いているが、IT関連と自動車関連に活気が戻ってきている好材料がある（アウトソーシング企業）。



(6) 北 陸



北陸地域では、景気は依然として厳しい状況にある。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

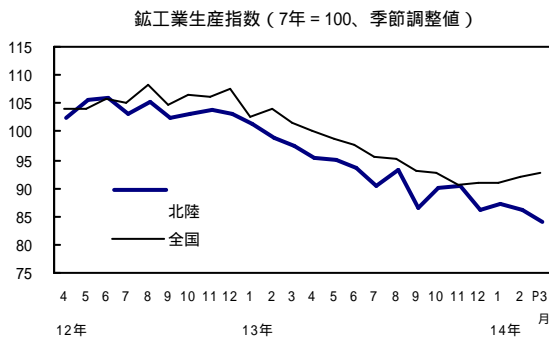
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 2 月)	今回 (平成 14 年 5 月)	
総括表現	一段と悪化している	依然として厳しい状況にある	
個人消費	弱含み	やや弱含み	
住宅建設	さらに減少	減少	
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい	

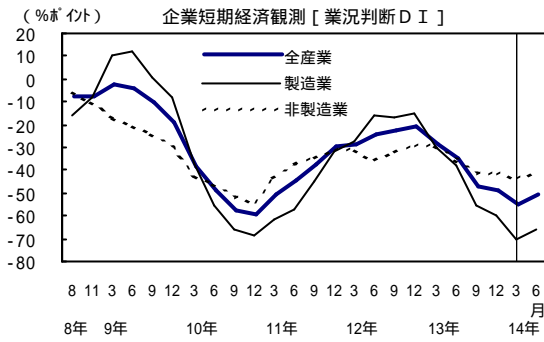
1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

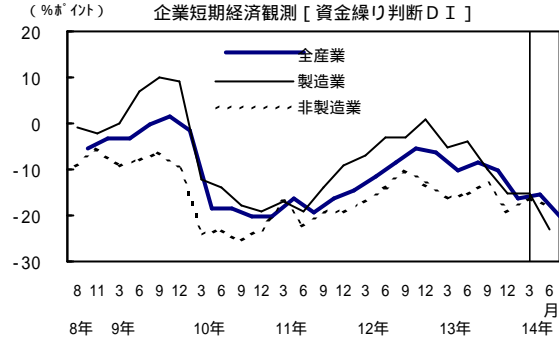
金属製品は、アルミ建材のビル向けがおおむね横ばいで推移しているものの、主力の住宅向けが引き続き低調であり、減少している。繊維は、外需で下げ止まりの傾向にあるが、内需では衣料用が、低価格輸入品との競合、低調な個人消費等により引き続き低迷し、減少している。電気機械は、電子部品が外需により持ち直しているが、コンピュータ周辺機器関連で減少傾向にあり、全体では弱含んでいる。一般機械は、建設機械や工作機械が減少しているものの、繊維機械で中国からの受注が急増している。化学は、医家向け医薬品が増産準備などからこのところ水準を落としているが、化粧品が堅調に推移しており、横ばいとなっている。



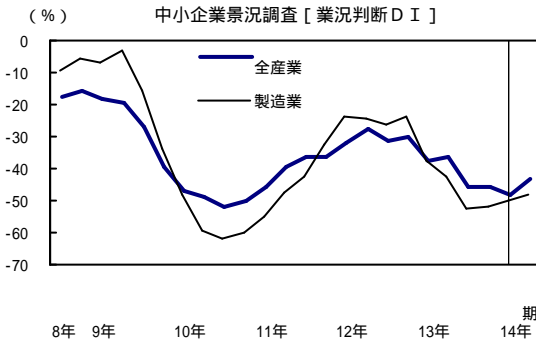
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいである。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 中部地区のDI。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「4月1日から薬の公定価格が平均 6.3%引き下げられたため、当然売上は減少し、メーカー、卸、小売業者ごとに非常に大きな格差が出ている (化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

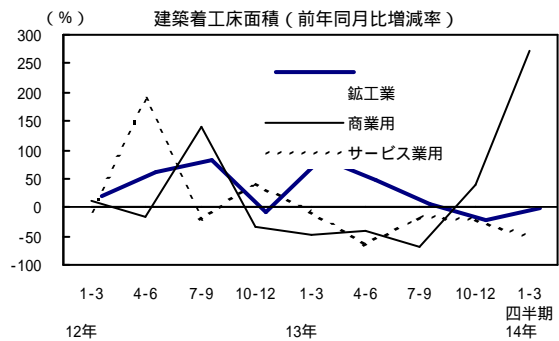
(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	9.2 [6.0]	13.7
製造業	10.0 [5.8]	21.1
非製造業	7.3 [6.5]	2.8

(備考) []は前回 (12月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

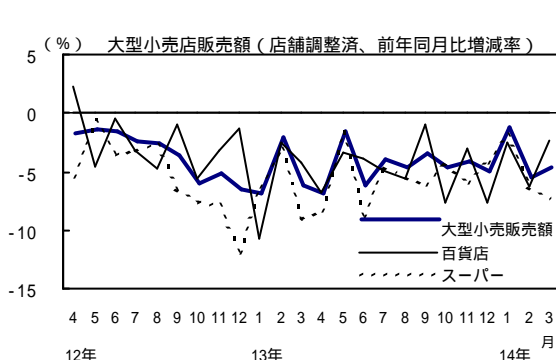
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は暖冬の影響からコート等冬物衣料が振るわず、2月においても春物にやや動きがみられたものの、冬物処分セールが低調に推移したこと等から前年を下回った。3月は、気温が高めに推移したことで春物や初夏物に動きがみられ衣料品が前年を上回ったものの、飲食料品が引き続き低調なこと等から、全体では前年を下回った。

スーパーは、野菜や果物の相場安が続き、肉類等も振るわないなど飲食料品等の不振が続き、衣料品も引き続き低調なことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「小型車はR V車を中心に結構売れているが、2000CCクラスの高価格車は乗用車を中心に相変わらず売行きが回復していない(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

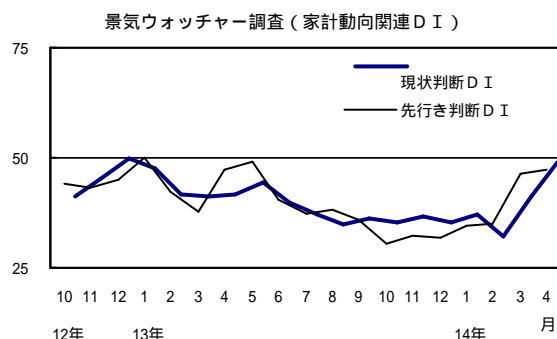
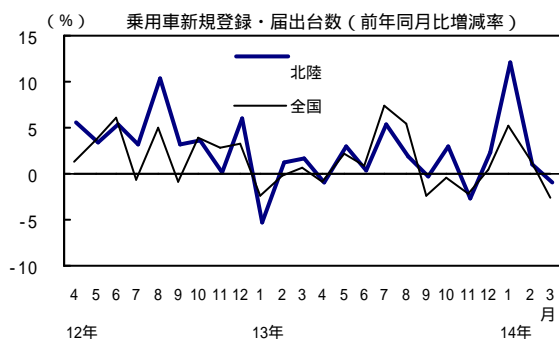


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	5.7	4.8	5.4	4.3
百貨店	4.7	4.0	6.4	3.5
スーパー	6.3	5.3	4.8	4.7
乗用車	1.0	0.7	0.9	0.1
景気ウォッチャー	38.6	32.5	32.2	33.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

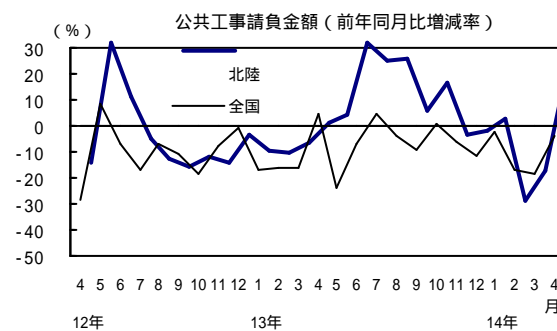
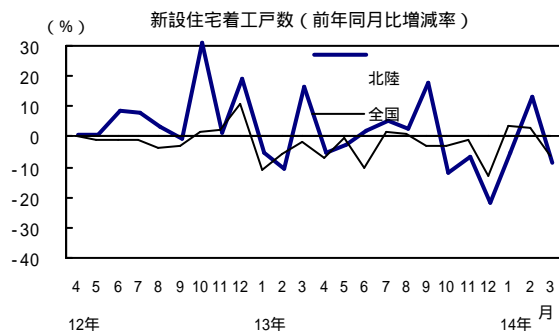


(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家を中心に前年を下回っていることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

4月は前年を上回ったが、1～3月期では25.3%減少した。

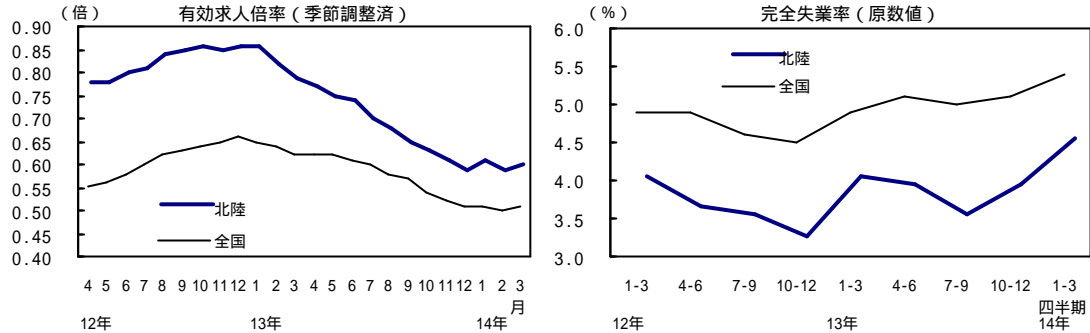


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

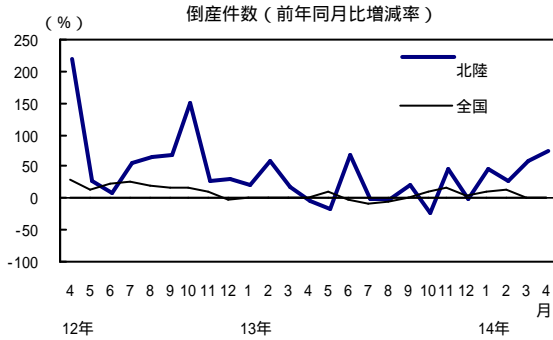
有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「求人内容は営業が大半で、女子学生から希望の多い事務職は半減しており、厳しい状況が続いている (学校 [大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	112	119	115	127	57
(前年比)	8.2	13.8	16.7	24.5	54.1
負債総額	272	298	178	459	209
(前年比)	14.2	51.7	40.2	103.5	94.2

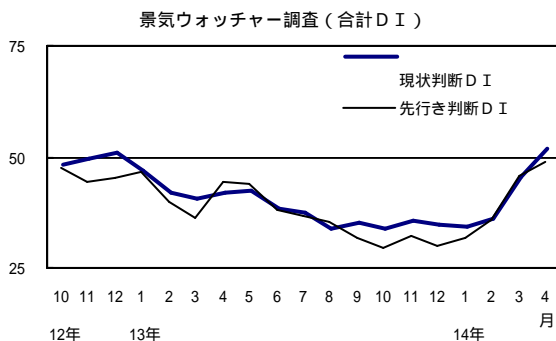
景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・従来、販売価格は100円が主流であったが、最近は150円、200円の商品の数量が増加している。売価が徐々に上昇する傾向がみられる (食料品製造業)。
- ・ファッションの中で昨年になかった色目の商品、特にパステルカラーの商品はある程度動いてきたが、客の慎重な購買行動は依然変わらない (百貨店)。

<先行き>

- ・「ブロードバンド」という言葉がマスコミ関係で盛んに取り上げられているが、今後、情報関連商品の動きに大きな期待が持てる (家電量販店)。



(7) 近畿



近畿地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

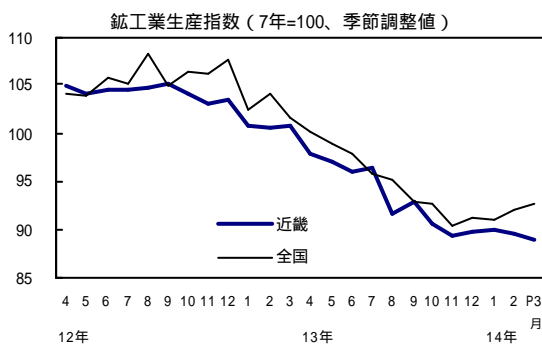
前回調査からの主要変更点

	前回(平成14年2月)	今回(平成14年5月)	
総括表現	一段と悪化している	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、電子部品関連の在庫調整が進捗している一方で、IT関連需要の持ち直しを背景に生産は増加している。一般機械は、建設機械、物流機械などでは国内の設備投資、公共事業関連向けが弱いことから低調なものの、輸出の持ち直しから生産は増加している。化学は、一部合成樹脂で輸出向けに動きがみられるものの、基調は弱く、生産は減少している。繊維は、紡績や織物を初め需要の低迷や輸入品との競合から不振が続いている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	17.7	7.3	2.2	4.9	1.3
一般機械	16.2	6.8	1.9	3.1	4.1
化学	11.8	3.8	0.6	0.7	4.1
金属製品	7.3	3.2	3.2	3.7	0.9
繊維	7.3	3.5	2.5	1.5	3.5
鉱工業	100.0	4.0	0.6	1.5	3.9

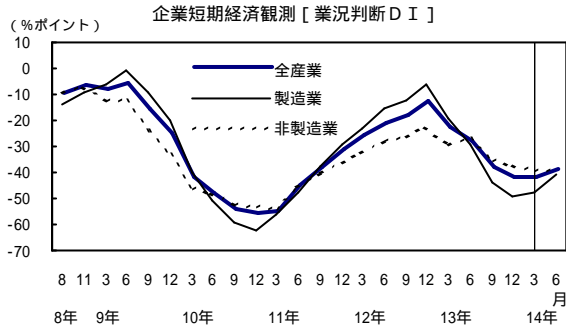
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 1~3月期は速報値

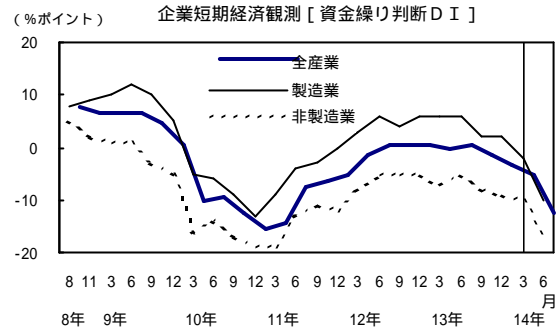
(備考) Pは速報値

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

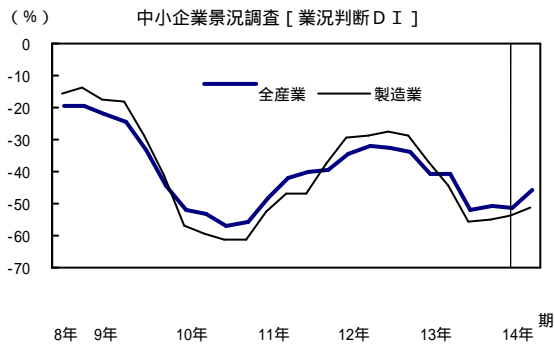
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「在庫調整が進んでいる割に受注が増加していない(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

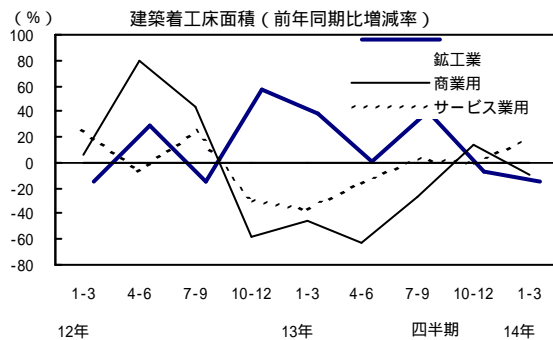
(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	9.3 (1.6)	8.7
製造業	11.7 (1.8)	9.8
非製造業	7.0 (1.3)	7.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

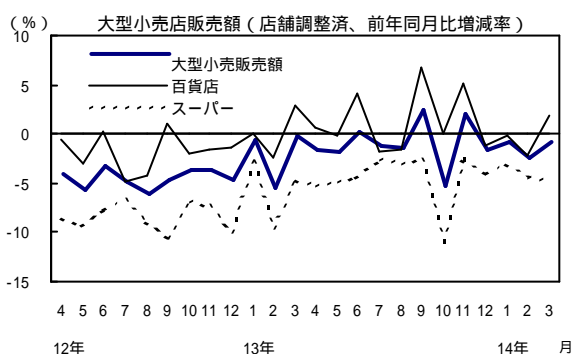
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、昨年以降、四半期に均すと前年を上回る傾向にあったが、1～3月期は前年並みとなった。月次の動きをみると、暖冬の影響等から3か月続けて前年を下回った後、3月は気温の上昇により春物衣料が好調だったこと、一部店舗の改装効果もあり、4か月振りに前年を上回った。商品別にみると身の回り品や婦人衣料が堅調に推移している。

スーパーは、29か月連続で前年を下回っている。3月の動きをみると、野菜等の相場安により価格が下落したことから主力の飲食料品が引続き不振だったこと、前年の家電リサイクル法施行前の駆け込み需要の反動減で家電製品が大きく減少した。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

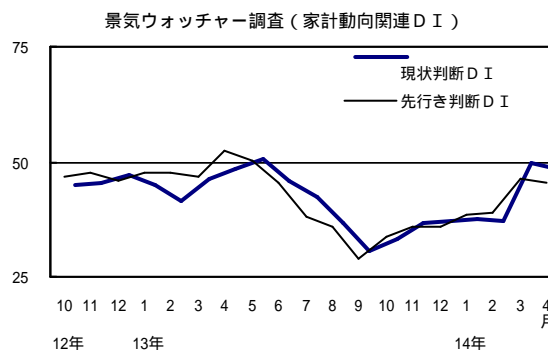
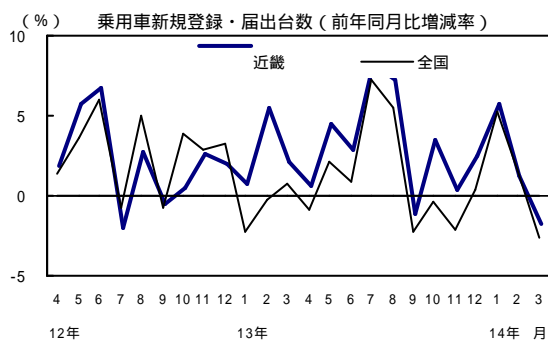
「狂牛病の影響が薄れ、肉部門の売上はかなり回復してきたが、逆にこれまで好調であった魚部門が他部門並みの数値に落ち着いてきたため、全体として変わらない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	2.1	1.1	2.7	2.3
百貨店	1.5	0.7	1.0	0.0
スーパー	4.8	2.7	5.8	4.0
乗用車	1.7	3.4	1.1	0.2
景気ウォッチャー	44.8	33.1	32.1	38.1

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

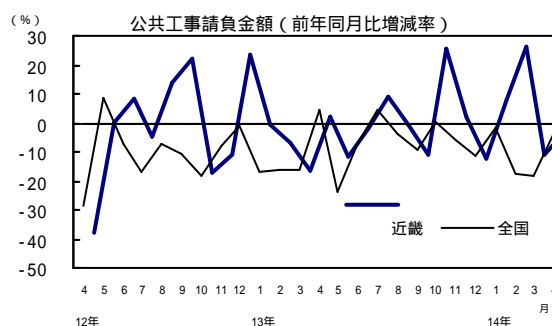
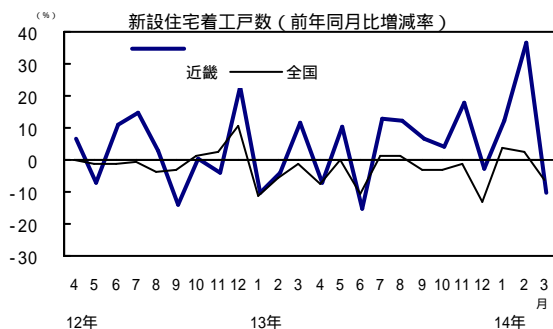
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家、分譲が前年を上回っているものの、持家の不振により基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

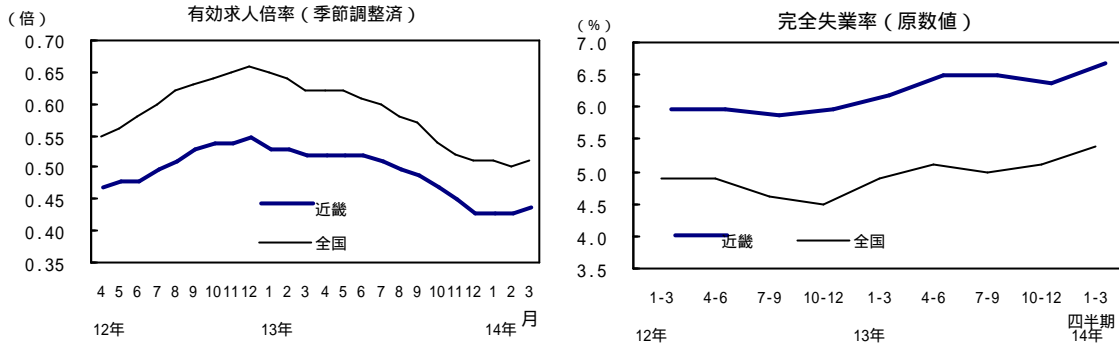


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

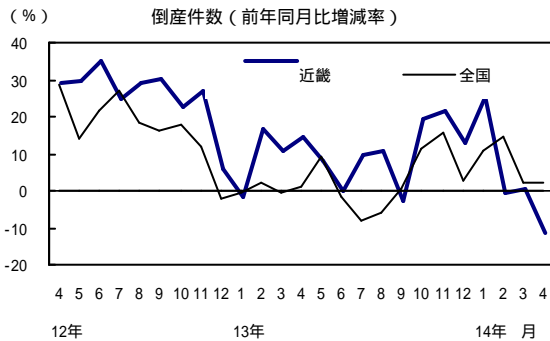
有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期を上回り、依然として高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「新規求人数は13年8月以降前年を下回っており、中でも金属、一般機械が目立って減少するなど厳しい状況が続いている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数 (前年比)	1,058 (3.6)	1,094 (2.1)	1,211 (14.4)	1,084 (3.1)	307 (15.2)
負債総額 (前年比)	6,243 (9.9)	28,186 (94.1)	5,779 (0.1)	8,549 (40.8)	1,392 (64.1)

景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・液晶やプラズマテレビなどの高額商品の単価が上昇している (家電量販店)
- ・受注量は減少している。少量の受注についても、輸入品との価格競合等により、価格は極端に低下し採算割れであるが、取引せざるを得ない状況である (繊維工業)

<先行き>

- ・地価、建築費の底が見え、取引が動き出しているものの、依然として設備投資は抑えられている (建設業)

